

名もなき祝祭  
unknown spirituality

KUNST ARZT では、本田莉子の初個展を開催します。  
本田莉子は、古来からの人と布との関りをベースに、  
スピリチュアルな場を生み出すアーティストです。  
卒業制作作品でもある「儀式のように織る - 大漁旗  
3.11-」は、地元福島の被災地で使われていた大漁旗を裂き、  
アトランダムに並べ替え、“巨大な合掌”のような形に縫  
製したインスタレーションです。  
本展は、今年2月に東京都美術館で行う、鉄製の1m 60cm  
もある大きな針と糸を用いたパフォーマンスから展開した  
展示の構想です。ご注目ください。

(KUNST ARZT 岡本光博)



儀式のように織る - 大漁旗 3.11-

経歴

1997年 福島県まれ  
現在、京都芸術大学修士課程在学中

主な展覧会

2020年「KUAD ANNUAL 2020」(東京都美術館)  
2021年「KUA ANNUAL 2021 irregular reports いびつな報告群と希望の兆し」(東京都美術館)

2021年4月13日(火)から18日(日)

12:00から18:00

会場: KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

### アーティストステートメント

見えないものを信じることは、生き抜くための智慧でもある。  
その智慧を、人が手で「もの」を作ってきた歴史を辿り採集すること、  
現代を生きる智慧として新たに「もの」をつくることの両輪を以って、私自身の制作とする。

### 展覧会コンセプト

針と糸によって作られるものには、目には見えないものへの信仰心が宿っているように思う。  
その祈りは、たくさんの人には共有されにくい。  
しかしある土地の、ある時間の中では必然の行為なのだ、まぎれもなく。  
それは時に、人が生き抜くための祝祭となる。  
2020年から制作し始めた本作は、私自身或いは、遠いどこかの誰かの物語。  
未曾有の時代の中にいる私たちにとっての針と糸の物語なのである。



名もなき祝祭 2020年 パフォーマンス/京都芸術大学



名もなき祝祭 #2～#4 2020年 テキストと糸のインスタレーション/京都芸術大学